



学校だより 小雀

令和3年1月21日発行
2月号
横浜市立小雀小学校

ホームページ：<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kosuzuki>

「教える」ことの三つの事柄

副校長 岡部 一郎

2021年がスタートしました。昨年は新型コロナウイルスへの対応について、保護者や地域の皆様にご多大のお力をいただきました。本当にありがとうございました。そして、なんと言っても子どもたちは、手洗いの徹底など感染予防に一生懸命、取り組んでくれました。我慢しなければいけないことも多くあったと思いますが、とても頑張っていました。私たち教職員が、この子どもたちの頑張りをしっかりと認めていけるようにしたいと思います。一方で、年明け、本県に非常事態宣言が出されました。感染予防の徹底を再確認し、今後の教育活動を進めていきたいと思っています。

さて、このコロナ渦の中、「教える」ということを少し考えてみたいと思います。「教える」とは、学校で言えば私たち教職員が子どもたちと直接向き合い学習内容を**教え、伝える**（①）作業であると多くの人は考えると思います。しかし、「教える」にあたっては、子どもたちが学習内容を習得し、「できた」「わかった」という実感が得られることが大切です。このためには、教員が子どもと向き合って教えるだけでなく、新しく必要不可欠な環境を設定することが必要です。例えば、動物園で柵が高くて向こう側にいる動物が見えないときに、踏み台を用意するといったことです。**援助や支援**（②）といった言葉がこれにあたるのではないのでしょうか。私たちは、日々の教育活動の中で、教え、伝え、そして援助や支援の方法を工夫することが求められています。

ただ、これだけでは十分とはいえません。新しく必要不可欠な環境を設定できるよう周囲の人、物、ことに教える側の人**働きかける**（③）作業も必要になります。先の動物園の例でいうと、誰もが柵の向こうにいる動物を見ることができるよう「踏み台を用意しておいてください。」と動物園の職員に伝え、子どもたちが「〇〇がいたよ」「〇〇が見えたよ」と実感できるよう働きかけることがこれにあたります。

「教える」とことは、広い意味で**教え、伝える**（①）、**援助や支援**（②）、**働きかける**（③）といった三つの事柄を日々の実践の中で、質の高いものにしていくことと考えています。中でも難しいのは、三つ目の**働きかける**ということです。動物園の例で言えば（あくまでも例えの話です。実際の話ではありません）、踏み台をお願いする際に「踏み台がなくても十分見えますよ。」とか「どうして踏み台が必要なのですか。」といった応えが返ってくるかもしれません。新しく必要不可欠な環境設定をするには、子どもたちを含め、周囲の人たちから理解が得られるような説明が求められます。つまり、人々の文化や習慣、考え方や価値観に働きかけることも想定されるのです。

今後、子どもたちは、これまで以上に多様な環境や価値観の中で生きていくことになると思います。また、コロナ渦における新しい生活様式など、子どもたち、また保護者の皆様、地域の皆様に、必要になることを新たにお願いすることがあるかもしれません。先の見通しがもちにくい昨今ではありますが、私たち教職員は、「教える」ことの三つの事柄を踏まえ、小雀小学校の全ての児童が自分らしく、楽しく学習できるよう、教育活動の一つひとつ着実にやっていきたいと考えています。どうぞ、よろしく願いいたします。